

戦争は女性たちの〈日常〉に中断をもたらすようにみえます。しかし女性たちの平時の活動や経験は、日常生活に浸透している軍事主義と無関係であったとはいえません。この講演会では、時代や場所や階層の異なる女性たちに注目し、彼女たちが日常生活の軍事化のもとで何を考え行動したのか、戦争という〈非日常〉に直面してどう主体的に行動したのか、また戦争の暴力をどのように受け止め、平和主義へのアクションに向かったのかをジェンダーの視点から問いかけます。

大阪公立大学女性学研究センター主催
2022年度第26期女性学講演会

戦争とジェンダー

〈日常〉と〈非日常〉を貫く軍事主義と女性の主体性

秋林こずえ 同志社大学教授
女性兵士と軍隊内性暴力 — 米軍の経験

林葉子 名古屋大学教授
日清・日露戦争期の芸妓たちの慈善活動と戦争協力

橋本信子 大阪経済大学准教授
女性兵士をめぐるイメージと実態
— ソ連、ロシア、ウクライナを事例に

内藤葉子 大阪公立大学准教授
第一次世界大戦とドイツ市民女性運動
— 戦争協力か平和主義の追求か

11/12(Sat)
14:00-17:10

(対面受付開始 13:30) 参加費無料

対面・オンラインのハイブリッド開催 (Zoom 利用)

※新型コロナウイルス感染状況により、Zoomのみで開催する可能性があります。

場所: 大阪公立大学中百舌鳥キャンパス B3棟 2F 208 教室

定員 (先着順):

対面 40名 オンライン 120名 ※定員に達し次第、申込締切前であっても受付終了とさせていただきます。

申込方法:

対面参加・オンライン参加希望者ともに、女性学研究センター WEB サイト、または QR コードからお申し込みください。

申込締切: 11月9日(水) 17時まで

Zoomのアドレスを11月10日(木)にお知らせいたします。この日にメールが届かない場合、11月11日(金)16時までに女性学研究センターにご連絡ください。

お問合せ先: 女性学研究センター

<https://www.omu.ac.jp/sss/cws/>



コーディネーター: 内藤葉子 (本学准教授)

共催: JSPS 科研費若手研究 (19K20584) 「女性の身体性と主体性の関係をめぐるコンフリクト — 帝政期ドイツ市民女性運動を中心に」 (研究代表者: 内藤葉子)

後援: 名古屋大学ジェンダーダイバーシティセンター